

米国の関税が台湾の木材加工産業に与える影響

台湾に輸入される原木または木製品の関税率

財政部関務署が発表した「国定税率」は、輸入製品に適用されるが、輸出製品には適用されない。これらの税率は、海外から台湾に輸入される商品に対し、「関税法」に基づいて政府が定めた基準である。輸入業者または個人が海外から商品を購入し、台湾に輸入する場合、税関はこれらの関税コード及び対応する国定税率に基づいて輸入関税を決定する。

一方、台湾の輸出品には原則として輸出関税は課されないが、特定の重要な資源や機微な製品が含まれる場合は、政府が賦課する輸出関税を発表する。

ほとんどの原木および一次加工木材製品は、台湾に輸入する際の関税が免除される。この政策は、薪材、原木、製材品などの木質原料 (HS 4401-4411)、または建築用木工品、木枠、木箱などの木製加工品 (HS 4413-4421)、HS 4412 の中の針葉樹製合板、LVL、単板などの装飾パネルを対象としており、これらはすべて輸入時の関税がゼロとなる。この免税政策は原材料のコスト削減に役立ち、地元加工業者が輸出を中心として木材加工産業を発展させるよう後押しするものである。ただ、HS 4412 の合板、単板貼り合板、集成材のうち、広葉樹材の輸入品に対しては輸入関税が課される。対象は広葉樹の合板、ランバーコア合板、LVL、ランバーコア合板の素地板及び二次加工ボードである。そのうち、素地合板の輸入税率は 8.5%、素地 LVL やランバーコア合板の輸入税率は 10% である。表面処理やその他の加工工程を経た製品は、輸入税率 12.5% となる。

台湾の加工合板、フローリング、木枠などの製品には相当の付加価値があるが、米国が追加関税を課せば台湾製品の価格優位性は弱まる。関税政策は加工地の選択にも影響する。もし、米国が台湾から輸入する製品に対し免税か優遇税率を与えるならば、台湾の木材加工業者にとっては「低関税で原材料を輸入し」、「加工したのち、免税か低関税で米国に輸出できる」という二重のメリットを得ることができる。

近年の台湾と米国間の木製品貿易の推移

財政部統計署によると、台湾木材加工製品の対米輸出入には、木材・木製品、パルプ、家具全般が含まれ、貿易総額は表 3、4 の通りである。台湾と米国の貿易状況を見ると、台湾から米国に輸出する木材・木製品の貿易総額は、2020 年に約 4,260 万米ドル、2024 年では約 5,150 万米ドルと概ね安定している。比較として、台湾から全世界に輸出される木材・木製品の貿易総額を見てみると、2020 年は約 1 億 4,230 万米ドル、2024 年約 1 億 3,060 万米ドルで

あり、米国は依然として台湾からの木材製品の最も重要な輸出市場の一つであることがわかる。(米国向け輸出が、世界への輸出総額の30%~40%を占めている)。

台湾の全家具カテゴリーの対米輸出額は、2021年の約13億3,800万米ドルがピークで、2021年以降3年連続で減少し、2024年には8億6,800万米ドルまで下がった。下げ幅は35%を超える。また、財政部関務署の輸出入統計(表5)によると、過去5年間の木製家具¹米国向け輸出額は、最大であった2021年の約1億1,910万米ドルから、2024年には約6,520万米ドルに減少した。木製家具全体の輸出額が大幅に減少しており、家具全般でも輸出が減っている。台湾の木製家具は、徐々に他国(中華人民共和国、ベトナム、インドネシアなど)に取って代わられつつあり、産業構造が国際競争による大きな圧力に直面していることを示している。しかし、台湾木製品の対米輸出比率は世界向け全体の70%~78%と安定しており、台湾にとって米国が最も重要な輸出先であることがわかる。

輸入面では、台湾の米国からの木材、木製品、パルプの輸入も減少傾向を示している。木製品は2021年の約4,140万台湾ドルから2024年には約2,670万台湾ドルに減少(下げ幅35.51%)し、パルプは2021年の約4億9,570万台湾ドルから2024年約3億2,060万台湾ドルに減少(下げ幅35.31%)した。木材・木製品、パルプの世界からの輸入も減少傾向にある。木製品は、2021年の約14億9,250万台湾ドルから2024年には約11億9,000万台湾ドルに減少し(下げ幅20.27%)、パルプは2021年の約27億4,500万的ドルから約25億1,700万台湾ドルに減少した(下げ幅8.31%)。これは台湾がパルプの輸入先を他国に切り替えたこと、紙製品のリサイクル率が向上したこと、全体的な需要が減少したことなどが関係している可能性がある。

全体として、近年の台湾の木製品、家具の米国及び全世界との貿易は、原材料の調達先、輸出国同士の競争、関税の差異、為替レートなどによるコストの増大や市場競争力の低下などの圧力にさらされており、その結果、企業成長への課題が増加している。トランプ関税や台湾ドルの対米ドル13%切り上げが、産業に影響と課題をもたらしている。政府はこれに対し、「9大側面、20の措置、総額930億台湾ドルの予算」という支援策を打ち出した。これは、金融支援、通関事務コストの削減、産業競争力の強化、多角化市場の開拓、租税優遇措置、雇用の安定化などを実施して、企業、労働者、農民・漁民への影響を緩和し、国民経済と産業発展の安定化に全力を尽くし、産業と台湾の人々がともに安心できるよう支援するというものである。

¹ 中華民国商品標準分類 第94章「家具」に記載の木製家具関連商品には、木製オフィス家具、木製キッチン家具、木製寝室家具、その他の木製家具などが含まれる。

表3 2020年～2024年までの台湾の木製品、パルプ、家具類の対米貿易総額

米国 年	輸出			輸入	
	木材・木製品	パルプ	家具類	木材・木製品	パルプ
2020	42,571	219,149	1,129,709	33,695	405,085
2021	50,789	268,478	1,338,572	41,365	495,674
2022	52,737	299,336	1,112,839	31,224	437,391
2023	41,728	252,123	932,116	28,223	374,129
2024	51,528	254,461	868,101	26,661	320,583

表4 2020年～2024年までの台湾の木製品、パルプ、家具類のグローバル貿易総額

	輸出			輸入	
	木材・木製品	パルプ	家具類	木材・木製品	パルプ
2020	142,270	1,860,491	1,975,272	1,141,296	2,305,324
2021	157,587	2,127,722	2,352,159	1,492,530	2,745,082
2022	150,734	2,201,333	1,958,499	1,463,690	2,775,163
2023	122,059	1,828,844	1,578,568	1,216,712	2,460,362
2024	130,599	1,728,263	1,482,671	1,190,090	2,517,213

表5 2020年～2024年の各年に台湾が米国に輸出した各種木製家具の貿易額

	単位：千 US ドル				
	2020	2021	2022	2023	2024
木製オフィス家具	1,742	7,588	3,287	3,742	2,504
木製キッチン家具	10,765	11,975	12,009	8,745	5,916
木製寝室家具	9,458	9,891	5,847	2,177	2,366
その他の木製家具	83,306	89,667	77,388	73,560	54,444
米国向け 木製家具輸出額	105,271	119,121	98,531	88,224	65,230
全世界向け 木製家具輸出総額	151,313	168,431	131,152	112,701	87,090
木製家具輸出中、 米国向けが 世界全体に占める 割合	69.57 %	70.72 %	75.13 %	78.28 %	74.90 %